

「百人の一步」

(第十回)

20世紀から21世紀へと時代が移った。新しい世紀を迎え、皆様方の周りで展開はみられただろうか。2001年のカレンダーを見ながら、スケジュールを考えている人もあるだろう。

一方、社会では、成人式をはじめとして、社会や教育のひずみを示すニュースが続いている。日本の政治は混沌とし、経済状況もなかなか上向いてこない。季節とともに世の中も寒々としているようだ。

さて、21世紀とは2001～2100年までを指す。この理由を説明しよう。かつて暦を調節した時、紀元前100年から紀元前1年までの100年を紀元前1世紀、紀元後1年から100年までを1世紀としたからである。ここには0年がない。

健康のススメ

板東 浩

0は後にインドで発見されたのである。日本では、年齢を言う時に「数え」または「満」で数える。月の暦でも、1月から始まって12月、その次は0ではなくまた1月だから、普通の間感で「は数えの方がわかりやすいのかも」れない。

1年の最初は寒い冬の季節から始まる。しかし、初春という言葉があるように、物事は春から始まるのが日本人にはふさわしい。気候は冷たく身体は凍えていても、心の中は春と感じて雪解けの日を待ち望んでいるのである。

寒暖計の目盛りは、相変わらず0度付近を指している。体調を整えながら、心の中は将来の希望で熱く燃え盛っていてほしい。人々のエネルギーが集まれば、すごいパワーとなる。「一人の百歩」よりも、「百人の一步」である。

(徳島大学附属病院内科医師)